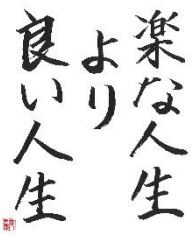
向日葵だより
黒沼共同会計事務所
Kuronuma Accounting Office
あなたの快経パートナー
第343号
2026年4月10日発行

三様の人間論

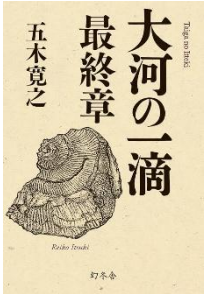
先月来のアメリカによるイラン攻撃により国際情勢がひっ迫する中、野球界のビックイベントである WBC の戦いが進み、戦前の予想通りに東京ラウンドでは侍ジャパンは順当に勝ち進みましたが、マイアミの本番では準決勝戦を前に敗退してしまいました。誰もが連覇を疑いませんでしたが、中南米のチームの圧巻のパワーと、全員が MLB の現役選手で本気でぶつかってくる意気込みの差だった気がします。惜敗後の SNS などでは監督の采配に対する批判も多くみられ、中でも日本プロ野球界での監督未経験を挙げているものもありましたが、他の監督候補に挙げられた大物がこぞって尻込みした事実から、正論とはいいがたいと思いました。次回大会に期待いたしましょう...。

さて、4 月は会計年度の切り替えもあり、多くの私共のクライアント会社も新年度を迎えました。日本の各地から春の便りも届き、心弾む時期なのですが、先の見えないイラン情勢の混迷もあり、うっとうしい日々が続いて残念な気がしてなりません。



拙宅の部屋に掛けてあるイエローハット創業者で日本を美しくする会の創始者の故鍵山秀三郎語録の 4 月のカレンダーは、直筆の「楽な人生より良い人生」と共に次のような添え書きがあります。「人間として生まれてきた以上、自分のためだけの人生ではあまりにも情けないことです。できるだけ自分以外のために生きて、よい人生をおくりたいものです。」（心に沁みる言葉、日々新たに感じ入っているところです。）

そしてこの時期に、「生き方」について含蓄のある書物も上梓されております。“人は何かのために生きるのではない、誰かのために生きるのだ”と五木寛之氏のベストセラー『大河の一滴』から 30 年の今、改めての集大成と銘打った『大河の一滴…最終章』です。作者自らの少年時代の引揚体験、自死への欲求、思いがけない病の宣告…あえて、前作の大河の流れに逆らうことを決意したという、告白的人間論ともいえるものでした。前作では、



人生を大河の流れに身をまかせて、生命の海へと流れていくと極めたはずであったが、時にはそれに逆らって生きることもあっていいのでは...と。仏教の言葉でいう「自利利他円満」のように、「自分の幸せ（利益）が他人の幸せ（利益）にもつながり、他人の幸せ（利益）が自分の幸せ（利益）にもなる、互いが幸せになり喜び合える世界」を求め、何人かのために生きる責任があり、人々の果たさざる思いを背負って生きる義務があるのではないか...。（誰かのためにも生きるのだ…！と）

さらに先日には、ＮＨＫ特集「85 歳の執念　行革の顔・土光敏夫」（放送年度：1982 年度）の心を揺さぶるアーカイブ番組もありました。当時国債の発行残高が 82 兆円を超え「国家財政は危機に瀕している」といわれた 1981 年（昭和 56 年）、この局面を打開するため「第二次臨時行政調査会」（通称「第二臨調」）が生まれ、会長には「増税なき財政再建」を目指す土光敏夫氏が選ばれたのでした。番組は土光氏の日常に密着し、老体を押して行政改革に執念を燃やす姿を追っていました。国家の財政改革には、まず家庭の改革から... を絵にかいたような朝の食卓のメニューがメザシの焼き物と家庭菜園の青菜炒めが印象的で、感服いたしました。（視聴者からも大きな反響があったと記憶しています！）

公認会計士　黒　沼　　憲